

2017年度 入学者受入れの方針に照らした大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証

FD委員会

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り（学科／研究科専攻の入学者受入れの方針）」のデータを活用した検証です。学科の入学者受入れの方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻	検証の結果										
<p>社会福祉学科</p> <p>各設問について、1～5のルーブリック形式の選択肢とした（関心・意欲があるという意味での適切なレベルを2に設定）。得点化した平均値の結果が右の図である。</p> <p>問1「私は、人間や社会に対する関心と探求心に富む人である」、及び3「私は他者とともに考え、ともに活動することに喜びを見いだしている」については、7割以上の入学生が意識していたと考えられる。一方、問2「私は、社会に貢献する意欲を持っている人である」は、約半数の者が「気持ちはあるが、行動をしていない」と回答している。また問4「私は、社会福祉の理論（知識）と実践を融合させ、社会福祉学について深めている」については、3割程度の者が「社会福祉学へ向き合う姿勢があるが、深まりは感じていない」と回答していた。意識していることが行動として起こされていること、社会福祉学について深まりを感じることは、大学入学後比較的早い段階の学生には難しいことが示唆される。</p> <p>自由記述からは、入学後、自分自身が大学生になったことで学習環境、生活、交友関係等の変化があったこと、そうした変化に慣れるまでは学んでいることや意識していることを実際に行動に移すことが難しいこと、ゼミで自分を見つめ直す機会を持てたことで自分自身についての見方が変わったことなどの記述が見られた。また、高校生活までの間にボランティア経験等で人とかかわりを広げてきたとする記述がある一方で、高校までは限られた人とかかわりをもってきたとの意見や大学入学に伴う変化の中で交友関係の範囲が狭まったとする回答があった。そうした回答には、学生生活を通して、かかわりの幅を広げることや、実践的に学んでいきたいとする抱負が書かれているものもあった。</p> <p>このため、入学の志の意識を行動につなげ実現していくには、大学合格及び入学後に、それまでの経験の幅に合わせて、入学前及び入学後の学習や日常生活での行動における福祉的課題への取り組みを促すような対応が必要であろう。</p>	<p>検証の結果</p> <p>学びの志（入学者受入れの方針）</p> <table border="1"> <caption>学びの志（入学者受入れの方針）の平均値</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間・社会への関心</td> <td>2.92</td> </tr> <tr> <td>社会貢献意欲</td> <td>2.78</td> </tr> <tr> <td>協働の喜び</td> <td>3.09</td> </tr> <tr> <td>理論と実践の融合</td> <td>2.68</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平均値	人間・社会への関心	2.92	社会貢献意欲	2.78	協働の喜び	3.09	理論と実践の融合	2.68
項目	平均値										
人間・社会への関心	2.92										
社会貢献意欲	2.78										
協働の喜び	3.09										
理論と実践の融合	2.68										

